

【緑地を楽しむ本】

『季節のごちそう ハチごはん』

横塚眞己人 写真と文

ほるぷ出版



表紙の写真はハチがテルテル坊主のようなものをぶら下げて飛んでいる。3ページの写真は女の子がヘボ（黒スズメバチ）の甘露煮入ったご飯をおいしそうに食べている。本当においしいのかなと疑りたくなる。でも、本当においしいらしい。

岐阜県、長野県、愛知県などの山間部では今でもこれを食べているという。ヘボは土の中に

巣を作るので、簡単には見つけれない。それで7月頃、表紙のようにハチに目印を持たせて、飛んでいくのを何人もで追いかける。

やっと巣が見つかると家に持って帰る。そしてヘボにえさや砂糖水を与えて世話をすると、秋には巣は10倍以上に大きくなる。巣の中にはたくさんの幼虫やさなぎ。

それを甘露煮、ヘボ釜めし、ヘボ五平餅などに加工する。ヘボの巣コンテストまでであるという。私も1度食べてみたくなった。

（齋藤好子）